

# 会 議 録

平成25年4月30日調製

審議会等名	平成24年度 第2回 生涯学習推進会議		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成25年3月22日（金）午後2時00分～3時45分		
開催場所	三条市中央公民館 大集会室	傍聴者	なし
		報道機関	三條新聞
出席者氏名	生涯学習推進会議委員 丸山正夫委員 小林邦雄委員		
	高橋美智子委員 横川一樹委員		
	倉品章委員 野崎輝子委員		
	三条市	金子生涯学習課長	長橋生涯学習課長補佐
	小林生涯学習推進係長 伊藤主事		
議 題	(1)三条市生涯学習市民意識調査「生涯学習に関するアンケート」について (2)その他		
発言内容等			
金子課長	それではよろしくお願ひしたいと思います。		
丸山会長	<開会あいさつ>		
	本日は、生涯学習推進会議設置要綱第6条により、私が議事を進行させていただきますので、よろしくお願ひいたします。		
	ご覧のとおり、本日の議題は三条市生涯学習市民意識調査「生涯学習に関するアンケート」についての一点でございます。平成19年に生涯学習推進計画を立ててから6年が経過し、あとは今年度と来年度を残すのみということで、そろそろ第2次の推進計画の準備に入りたいということでございます。準備をするにあたり、一番基となる生涯学習に関するアンケート調査を平成25年度に実施するというところでございます。調査票（案）を事前にお配りして目を通していただいたと思いますが、お気づきの点があればご意見をお聞きしたいと思います。		
	それでは、「生涯学習に関するアンケート」について、事務局から説明をお願いします。		
金子課長	いつもですと年度末の事業の報告というのが主だった議題でございます		
	が、先ほど会長もおっしゃったように、生涯学習推進計画は平成19年度から平成26年度までの8カ年の計画を定めております。あと2カ年あるわけですが、平成27年からの第2次の計画を作り直すというようなことから、		
	まずは平成25年度に意識調査を行い、そのデータを見ながら平成26年度に		

金子課長	<p>計画作りを行いたいと考えています。この3月に一応の調査の項目立てをご論議いただいて、今年の7月始めくらいには調査票を配布し、集計に持っていきたいと思っておりますので、この時期にこのような議題を指定させていただきました。よろしくお願い申し上げます。</p> <p>&lt;「生涯学習に関するアンケート（案）」に基づき説明&gt;</p> <p>誤字脱字、あるいはこの質問は不要ではないか。もう少し丁寧な言い方に代えた方がいいのではないか。この部分にもっと質問を設けた方がいいのではないかとということがありましたら、意見を聞かせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
丸山会長	<p>丁寧なご説明をありがとうございました。問2の回答の選択肢に5が二つあるので、それを直しておいてください。</p> <p>それでは、ご意見をいただきたいと思いますので、気がついた方から順次お願いいたします。</p> <p>問7ですが、前回調査の時は回答の選択肢の3番は「テレビ、ラジオの教養番組」という項目でしたが、今回の案ではここに「インターネット学習」を追加されました。次の選択肢の4番には「パソコン、タブレット端末」とあります。これは、パソコン・タブレット端末・インターネットで一括りにした方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>また、「テレビ、ラジオの教養番組」とありますが、娯楽でテレビをつける場合もあるので、ちょっとイメージがつかないです。そこにインターネットがあると違和感があります。</p>
金子課長	<p>イメージとして、テレビについては放送大学などのCS放送を、ラジオについては文化講座を考えております。</p>
丸山会長	<p>確かに、設問自体は「その学習はどのような機会でしたか」ということです。ただ、インターネットについてはいかがですか。</p>
金子課長	<p>パソコン、インターネット、タブレット端末を一つの選択肢にするか、ということですね。</p>
丸山会長	<p>第2次の調査においては、こちらの方が増えてくるのが想定されます。</p>
金子課長	<p>前回調査では、サンプリングが1,100人、つまり郵送したのが1,100人で、有効回答数が495人で、回答率が45%ということでした。</p>
野崎委員	<p>平成17年度調査のときに1,100人だったから、また今回も1,100人ということですか。</p>
金子課長	<p>はい。</p>
野崎委員	<p>同じ人数にしなければいけないのですか。</p>

金子課長	そのようなことはないですが、人口は前回とほぼ変わらないです。
丸山会長	1,100人に意味があるのかなと思いました。1,000人ではなくて1,100人というところに何か意味があるのですか。
小林委員	人口に対する割合でしょうか。
金子課長	パーセンテージを県の調査と合わせたのですが、ちょっと調べてみます。
丸山会長	前回との対比ですから、できれば母数は同じ方がいいのでしょうか。今回2,000人に増やすとどうなるか、検討していただきたいと思います。
金子課長	分かりました。
丸山会長	他にありますか。
高橋委員	その1,100人の無作為抽出は、実際どういう風には選ばれるのですか。
金子課長	住民基本台帳から、年齢別・地域別を考慮してコンピュータで無作為に抽出しています。
高橋委員	たとえば20代の方・60代の方が平均的ということではないのですか。
金子課長	年齢を考慮していますので、偏りがなくなっています。
丸山会長	この年代別の意識調査ということになると、20代・30代・40代まんべんなく入っていないと結果は出ないのではないかと思います。
小林委員	年代別にすると、結局6段階に分けるといえることですか。
金子課長	資料には母数が書いていないのですが、前回の年齢別回答者数は出ています。20代が40人、30代が57人、40代が57人、50代が166人、60代以上が172人となっています。たぶん回答を手厚く送ってもらったのは50代・60代だと思います。抽出数は今データがないので調べてみます。
倉品委員	前回から少し年数が経っていると思いますが。
金子課長	8年経ちます。
倉品委員	年齢の方も70歳以上というのは、時代にマッチしたものだと思います。次回は80歳以上という項目も入ってくるのではないのでしょうか。細かいことですが、問2で「最も多いもの」ということですが、たとえば2番と5番の関係です。あるいは3番と5番でもいいのですけれども。テレビとラジオというツール、「モノ」と、5番は継続的な学習・習い事みたいな内容的なことが入ってくるものですから、具体的に、ラジオで英語・英会話の勉強を毎日しているということになると、どちらに○をつけることになるのでしょうか。
金子課長	こちらの意向としては、テレビを観たりラジオを聴いたりするというのは自由時間の過ごし方ですので、娯楽的な発想の範疇です。例えば、テレビあるいはラジオで、そういう継続的な学習や習い事をしているとなると、私どもの区分けでは6番の「継続的な学習・習い事」ということになりますが、受け取る方が、倉品先生のような受け取り方をする場合もあります。

倉品委員	昨今、NHKの語学番組なども非常に増えました。4～5年前に比べたらずいぶん増えて、特に昨年あたりからは、大人をターゲットにした「大人の基礎英語」というようなものが非常に増えました。このあたりがやはりちょっと悩むところかなと思いました。後で検討する時間があれば、ぜひ検討していただきたいと思います。
小林委員	問2で、選択肢の3番にパソコンが追加になりましたが、インターネットも入れたらいいと思います。
金子課長	「パソコン・携帯電話・インターネット」にするということですか。
丸山会長	そうですね。どうでしょうか。それも検討してみてください。
倉品委員	パソコンをやっていればインターネットを使いますから、パソコンというのもインターネットという意味合いの方が強いと思います。
丸山会長	あと、問5で選択肢の9番に「情報通信に関すること」とありますが、説明する言葉を入れてもいいのではないのでしょうか。例えば、「情報通信」ですから、インターネットとかでしょうか。「情報通信」というとどんなイメージを抱くかということですね。
金子課長	インターネット学習でしょうか。パソコン教室でもいろいろやっていますが、その中でもインターネットの接続の仕方などの講座を開講すると割と応募が来るので、そういった意味での学習を考えています。
丸山会長	他にはございませんか。
倉品委員	今の話に付け加わるのですけれども、新しく出てきた「インターネット」や「パソコン」というあたりの言葉の吟味というか、意義付けをしっかりとしていないといけないと思います。今、若い人は「携帯電話」とは言わないのだそうです。「ケータイ」と言うのです。電話はあまり使わないと言うのです。
金子課長	「情報機器」という意味合いでしょうか。
倉品委員	そうですね。そういう意味合いで若い人はどんどん使っています。だから、「インターネット」というのもどのように意義付けて吟味して言葉を選ぶかというあたりも考える必要があるのではないのでしょうか。
小林係長	「インターネット＝パソコン」ではないという前提なのだと思います。
金子課長	そういう多様化になるのでしょうか。
倉品委員	そうですね。パソコンというものにインターネットという機能がついているということです。
丸山会長	携帯電話でも同じことが言えます。
金子課長	携帯電話もインターネットが使えますから、パソコンと携帯電話は一括りにさせてもらっています。
丸山会長	他にございますか。
横川委員	問4ですが、これはいくつも○をつけるわけですか。

金子課長	そうです。複数回答です。
横川委員	一番下の追加部分の自由記述欄が一項目になっていますが、今後の公民館事業の講座設定にも使うわけであり、紙面の都合もありますが、具体的に聞かれた方が今後の事業設定に役立つのではないかと思います。
丸山会長	確かに、これは一個一個○を付けます。
金子課長	上から順に全部○を付けることになっています。
丸山会長	「非常にある」が3つくらいあっても、じゃあどれを書こうかなと思います。
横川委員	本当に具体的な内容が聞けるのは、この設問ですよね。ですから、公民館の事業設定にはいいのではないかと思いますのです。
金子課長	紙面を工夫させてもらいたいと思います。
丸山会長	他に気がついた点はございますか。
小林委員	問1、5、15、17、21ですが、「該当するものにすべて」となっています。これは、データの的にどうなるのでしょうか。三つ四つ付けたものと、一つ二つしか付けないものとあるわけですから、そのような場合の合計は少し違ってくるのではないのでしょうか。二つであれば二つ以内というようにしないと一人で何個もつけてしまうのではないのでしょうか。
金子課長	学習活動は、一つやった人もいればいろいろな活動をやった人もいるのでこれは複数回答でもよいのではないかと思います。 ただ、複数回答の中でも○をつける個数を限定するか、限定なしにするかについては、どちらがよりの確に動向を把握できるのか、少し検討させてもらいます。
丸山会長	他にはございませんでしょうか。
横川委員	この調査に答えてくださいと1,100名の方に配って、何名の方が対応されるだろうか、と思います。標題の最初のところは、目的が割合はっきりしているのですが、この結果を後で見せてくれるのかどうかということは、全然書いていません。ここに書いてあるのは、「本調査は行政上の基礎資料として活用することを目的とします」と、これで趣旨をうたっているわけです。だいたいアンケートを求める調査がありますと、必ず目的が書いてあって、この結果はどこで明らかにしますとか、こういう結果として活かさせていただきますというようなものが、アンケートの文章の成り行きになっているのではないかと思います。
丸山委員	アンケートの結果をフィードバックするのは、あの計画ですか。
小林委員	これは広報さんじょうで配布していましたか。
金子課長	そうですね。全市配布、全戸配布しました。
横川委員	アンケートの調査票は全戸配布しないのですか。

金子課長	調査票は全戸配布しません。他の計画作りの中でアンケートをとったりしているのですが、他のアンケートも参考にさせてもらいたいです。新潟市の事例を見ますと、「要望を伺って、今後の生涯学習推進のための基礎的な資料として活用するために行うものです。このアンケートへの回答はすべて無記名としますので、決して迷惑をおかけすることはありません。どうぞお気軽にお答えください」と、これだけでした。
横川委員	アンケートをする時は、調査票だけを配るわけではありませんね。
金子課長	いえ、調査票だけです。
丸山会長	今の調査票だと、鑑文も調査票の中に全部書いてあります。だから、これ一枚でも分かるのですけれども、何か鑑があった方がよいのではないのでしょうか。逆に、鑑を一枚持ってきて、調査票はアンケート内容だけにすれば、調査票にスペースができるのではないのでしょうか。
金子課長	調査票だけだと唐突のような感じもします。これは回答票なので。
丸山会長	鑑を充実して、丁寧にお願いするということです。
小林委員	いろいろなアンケートが来ますけれども、挨拶状みたいなものがあります。
金子課長	分かりました。そのあたりを検討いたします。
横川委員	2～3日前、私の家に労働に関する調査が来ました。名前まできちんと書いてあって、家族が何名、名前まで書いてあって、どこにも出していません、ただし国の方で使うと書いてありました。どう使うかは書いてありません。ですけれども。そしてタオルを3つばかり持ってきました。なぜ私が選ばれたのか分かりません。今日も調査票を見てきましたが、書くにも何だか大変だなと思いました。
金子課長	設問が多ければ多いほど大変だと思います。
横川委員	すごく多いです。「なぜあなたは働かないのか」などいろいろと書いてあって、おそらく雇用の実態調査なのではないでしょうか。これだけの調査を書くのは大変だなと思って、今日も少し書いてきました。この調査は行政当局から個人的に任されているのです。どこを回りなさいと。
金子課長	郵送ではなくて戸別訪問ですか。それは確実です。
横川委員	アンケートは、調査票にも書いてあるように「いつでも・どこでも・誰もが学べる生涯学習」を実現するような、みんながなるべく出したいなという気持ちを持てるようなアンケートであることは基本だなと思います。私はいつも書いていて書きづらいなあ、嫌だなあと思っているのですけれども、書いていて何となく楽しいと感じるようなことはないのでしょうか。これは宿命なので仕方がないことですが。どこで利用されるか分からないけれどもと言って、利用されるのは嫌だという人は書かないかも分かりません。どこで利

横川委員	用されるかが書いてあれば、ここで分かるのだな、これは出したい、という人もいるかもしれませんが。様々ですから何とも言えないでしょうけれども。
倉品委員	調査票の最初の鑑文の部分と最後の部分は別にし、もう1枚は純粹に回答票だけという形にした方がいいと思います。また、内容的に分かりやすい言葉で表記した方がよいと思います。例えば、鑑文の三行目に「そこで、平成27年度からを計画年度とする」というのも、分かっているような、分からないような専門用語みたいなどころもあるので、「計画年度」という言葉ももっと違った形で、要するに、こういう計画を立てるための基礎資料ということで活用させていただきますということが、はっきりと大きなポイントで書かれた方がいいのかなと思いました。新潟市は挿し絵もあります。
金子課長	そういう見せ方ですよ。
倉品委員	そうですね。余白もあってカットもあって、それだけ枚数が多くなるから大変なこともあるでしょうけれども、そういうところも参考にされたらいいと思います。
金子課長	確かにそうですね。
丸山会長	他にございませんか。
野崎委員	今、新潟市のアンケートを見せていただいて、この三条市のアンケートが来たら、私は書いて提出するのかなあと疑問に思いました。それで、私は結構若い方々とお話しておりまして、若い人達はこう難しい言葉ではなくて意外と端的に分かりやすい言葉で書いたり、質問を枠に囲んだりするとよいのではないかと思います。一瞬開くと目で文字とかを見ますよね。そうする時に、活字が入ってくると固い感じがして、拒否反応が起きたりすることもあるのかなと。新潟市のアンケートを見せていただいて、これだところ1枚ずつはぐって行って書きやすいな、回答しやすいなと思いました。
金子課長	三条市もそういった挿し絵を入れた方がいいのでしょうか。
横川委員	そちらの都合でなんとなく1枚にまとめたのでしょうかけれども、見る方にはあまりにも細かいです。目の悪い方もいらっしゃいます。
金子課長	分かりました。
丸山会長	先ほど言った鑑を1枚付ければ、調査票のスペースがもう少し広がるので、せめてそのくらいは。本当はあと2枚あるといいです。
横川委員	普通アンケートというのはだいたいそうです。
金子課長	確かに、新潟市のアンケートは活字が大きいです。レイアウトも検討させていただきます。
丸山会長	難しい課題です。
金子課長	前は印刷費の節減で、裏表1枚で済んでいました。
野崎委員	でも、それで回答数が増えればよいと思います。

金子課長	分かりました。良い意見をいただきました。
丸山会長	例えば、この用紙の色ですが、せめて真っ白い紙を使ってほしいです。
金子課長	再生紙ではなくて、ということでしょうか。
丸山会長	それだけでも見え方が全然違います。
倉品委員	ピンクとか赤、イエローとかがいいと思います。
金子課長	色上質紙でしょうか。
丸山会長	見やすい色をお願いします。真っ白でなくてもいいですけども、この色はやめてもらいたいです。いかにも社内的な感じがします。対外的に出す、お客様に出す書類ではないと思います。
野崎委員	せめて質問のところだけでも枠に囲んであげたり、区切りを見やすくしてあげたりする形にしていただければと思います。例えば、○が「1個」だったら「1個」のところだけ線を引くなど、そういうところでも見やすくなってくると思います。
金子課長	たぶん前回はこの用紙ではなくて、白い用紙で、業者印刷だったと思います。ちょっと工夫させてもらいたいです。よい意見をいただいて、ありがとうございました。
丸山会長	「その他」はございますか。
金子課長	特別私どもの方では用意しておりません。
野崎委員	一点よろしいですか。私は小学校の方でアシスタントをさせていただいておりまして、今は主に図書の仕事をさせていただいております。それで昨年、三条市の歴史・人物の本を小学校に40冊かいただき、本当にありがとうございました。三年生の子どもたちが三条のことについて調べているのですが、それがすごく役に立っています。欲を言いますと、最近子どもたちが、三条市の図書館ってどのようにしてできたのかとか、三条花火ってどのようにしてできたのかとか、祭りってどんなふうにしてできたのかとか、いろいろと三条のことをとても知りたがって聞かれるのですけれども、そういう資料は古いものが2冊くらいしか見当たりませんでした。子どもたちが三条のことを知りたいなと思うことは、それこそ生涯学習でとても良いことだと思います。何かの機会がありましたら、予算がかかるかもしれませんが、そういった資料をいただけたらありがたいです。何かありますか。
金子課長	「三条ものがたり」という子ども向けの資料がたくさんあります。図書館の子ども広報にずっと掲載していたものがあります。
野崎委員	それは学校の方にありますか。
金子課長	50部ずつくらい送付したと思いますが、まだたくさん余っているので、もう一回寄贈します。
野崎委員	その本には詳しいことが書いてあるのでしょうか。



金子課長	はい。五十嵐稔さんという方がずっと連載されていました。
野崎委員	それではまたお願いします。ありがとうございました。
金子課長	よろしければ、帰りにお持ちください。
丸山会長	本日はどうもご苦勞様でございました。貴重なご意見を多く出していただきまして、それを基に生涯学習課の方でまとめあげていただくわけでございます。任期が23・24年ということで、今回が一応最後の任期になります。これで退任される方もいらっしゃると思うのですが、大変ご苦勞様でした。それでは、これで終了とさせていただきます。ありがとうございました。

午後3時45分閉会